



## 平成26年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年3月14日

上場会社名 株式会社 稲葉製作所  
 コード番号 3421 URL <http://www.inaba-ss.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 稲葉 明  
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員経理部長 (氏名) 江口 勤  
 四半期報告書提出予定日 平成26年3月14日 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト及び機関投資家向け)

上場取引所 東  
 TEL 03-3759-5181  
 平成26年4月8日

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年7月期第2四半期の連結業績(平成25年8月1日～平成26年1月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年7月期第2四半期	13,920	0.7	785	20.1	910	24.7	966	134.0
25年7月期第2四半期	13,825	5.5	654	—	729	—	413	—

(注) 包括利益 26年7月期第2四半期 973百万円 (113.8%) 25年7月期第2四半期 455百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年7月期第2四半期	55.83	—
25年7月期第2四半期	24.33	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年7月期第2四半期	46,612	34,531	74.1
25年7月期	46,114	33,007	71.6

(参考) 自己資本 26年7月期第2四半期 34,531百万円 25年7月期 33,007百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年7月期	—	8.00	—	10.00	18.00
26年7月期	—	10.00	—	—	—
26年7月期(予想)	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年7月期の連結業績予想(平成25年8月1日～平成26年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	29,900	2.3	1,600	△16.1	1,800	△13.8	1,450	13.6	83.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

1株当たり当期純利益につきまして、平成25年10月及び11月に行いました自己株式の処分に伴う期中平均株式数の変動を反映した修正を行っております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年7月期2Q	17,922,429 株	25年7月期	17,922,429 株
② 期末自己株式数	26年7月期2Q	361,658 株	25年7月期	939,814 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年7月期2Q	17,315,882 株	25年7月期2Q	16,982,616 株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。金融商品取引法に基づき四半期報告書に添付する四半期レビュー報告書は、本日受領予定であります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策や日銀の金融政策により、輸出や生産の持ち直し、企業収益の改善など明るい兆しが見え始めました。しかしながら、米国の量的金融緩和縮小を起因とする新興国通貨の下落、中国の「影の銀行」に対する不安、輸入価格の上昇などによる国内景気を下押しするリスク要因があり、依然として先行きの不透明感は拭えない状況となっております。

このような状況のもと、当社グループが関連する鋼製物置業界におきましては、物置需要動向に直接関連する新設戸建住宅着工戸数は、回復の動きがあり、雇用や所得環境の改善が伴えば更に加速するものと思われれます。オフィス家具業界につきましては、首都圏での大型物件の減少や投資に対する企業の慎重な姿勢と激しい価格競争により、極めて厳しい状況で推移しました。

このような経営環境の中で、当社グループの鋼製物置セグメントにおきましては、一昨年の10月に「圧倒的高さと存在感」を誇る『イナバ倉庫』、昨年5月には断熱材をプラスした『NEXTA+（ネクスタプラス）』を発売いたしました。オフィス家具セグメントにおきましては、独自製品とOEM製品との生産合理化に向けた部材の共通化を実施し、部品点数削減及び軽量化を進めたデスク、ワゴンの生産を開始し、昨年1月には『DUENA（デュエナ）』（業界推奨H720デスク）、昨年2月には『Yera（イエラ）』（スタンダードチェア）、1月には新製品として『Sona（ソナ）』（個人用防災備蓄ボックス）を発売いたしました。

以上の諸施策を推進し業績の向上に努めてまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比0.7%増加の13,920百万円となりました。損益面につきましては、製造原価の低減に取り組んだ結果、営業利益は785百万円（前年同期比20.1%増）、経常利益は910百万円（前年同期比24.7%増）、四半期純利益は966百万円（前年同期比134.0%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(セグメント売上高)：当第2四半期連結累計期間（自 平成25年8月1日 至 平成26年1月31日）

セグメントの名称	金額（百万円）	前年同期比（%）	構成比（%）
鋼製物置	9,677	106.7	69.5
オフィス家具	4,242	89.3	30.5
合計	13,920	100.7	100.0

#### (鋼製物置)

小型収納庫におきまして東北地方における前期の仮設住宅向け納入に伴う反動減があるものの、全国的な防災意識の高まり、ガレージシリーズ、イナバ倉庫等大型製品が寄与し、売上高は9,677百万円（前年同期比6.7%増）、セグメント利益は1,355百万円（前年同期比12.9%増）となりました。

#### (オフィス家具)

部材の共通化を実施し、部品点数削減及び軽量化を進めたデスク、ワゴンの生産を開始するとともに、顧客の要望に合致した新製品（デスク、チェア、地震対策オプション）の開発に努めてまいりました。しかしながら、OEM先向けの販売は伸び悩み、依然として熾烈な価格競争が続いている状況にあります。

その結果、売上高は4,242百万円（前年同期比10.7%減）、セグメント損失は113百万円（前年同期は113百万円のセグメント損失）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ、現金及び預金が869百万円増加したこと等により498百万円増加して、46,612百万円となりました。負債につきましては、前連結会計年度末に比べ、支払手形及び買掛金が87百万円、退職給付引当金が138百万円減少したこと等により1,025百万円減少して、12,081百万円となりました。また、純資産は、前連結会計年度末に比べ、四半期純利益の計上等により利益剰余金が796百万円増加したこと等により1,523百万円増加して、34,531百万円となりました。その結果、自己資本比率は74.1%となりました。

<キャッシュ・フローの状況>

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ530百万円減少の6,307百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の獲得は、122百万円（前年同期比475百万円の収入減）となりました。これは、税金等調整前四半期純利益1,551百万円、売上債権の減少額268百万円等による資金増加要因と、有形固定資産売却益655百万円、たな卸資産の増加額215百万円、法人税等の支払額343百万円等の資金減少要因によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の使用は、1,196百万円（前年同期比734百万円の支出増）となりました。これは、定期預金の払戻9,300百万円、有形固定資産の売却による収入1,495百万円等による収入と、定期預金の預入による支出11,500百万円、有形固定資産の取得による支出340百万円等による支出があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の回収は、542百万円（前年同期は136百万円の使用）となりました。これは、自己株式の処分による収入712百万円による収入と、配当金の支払額169百万円等による支出があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年9月13日の決算発表時に公表いたしました予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年1月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	16,138,840	17,007,850
受取手形及び売掛金	7,439,729	7,170,772
有価証券	—	800,000
商品及び製品	1,600,741	1,794,315
仕掛品	168,464	176,602
原材料及び貯蔵品	284,038	298,263
その他	457,803	451,579
貸倒引当金	△5,252	△5,434
流動資産合計	26,084,365	27,693,950
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,506,720	3,818,077
土地	12,277,908	11,271,049
その他（純額）	1,525,696	1,191,865
有形固定資産合計	17,310,325	16,280,992
無形固定資産	78,618	147,647
投資その他の資産		
その他	2,641,852	2,490,799
貸倒引当金	△444	△398
投資その他の資産合計	2,641,408	2,490,401
固定資産合計	20,030,352	18,919,042
資産合計	46,114,717	46,612,992
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,750,637	6,663,526
未払法人税等	359,456	375,244
賞与引当金	256,049	260,818
その他	2,458,952	1,620,795
流動負債合計	9,825,096	8,920,386
固定負債		
退職給付引当金	2,099,377	1,960,833
役員退職慰労引当金	403,582	414,387
その他	779,470	786,256
固定負債合計	3,282,430	3,161,476
負債合計	13,107,526	12,081,862

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年1月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,132,048	1,132,048
資本剰余金	763,500	987,847
利益剰余金	31,820,189	32,617,142
自己株式	△805,779	△310,093
株主資本合計	32,909,958	34,426,944
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	97,232	104,184
その他の包括利益累計額合計	97,232	104,184
純資産合計	33,007,191	34,531,129
負債純資産合計	46,114,717	46,612,992

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年8月1日 至平成25年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年8月1日 至平成26年1月31日)
売上高	13,825,197	13,920,422
売上原価	10,185,294	10,029,449
売上総利益	3,639,902	3,890,973
販売費及び一般管理費	2,985,668	3,105,268
営業利益	654,234	785,705
営業外収益		
受取利息	12,422	8,819
受取配当金	1,733	2,319
作業くず売却益	38,819	58,168
電力販売収益	—	54,657
雑収入	23,857	41,746
営業外収益合計	76,832	165,712
営業外費用		
支払利息	1,187	552
電力販売費用	—	33,267
雑損失	20	7,517
営業外費用合計	1,208	41,336
経常利益	729,858	910,081
特別利益		
固定資産売却益	601	655,694
保険解約返戻金	5,132	—
特別利益合計	5,734	655,694
特別損失		
減損損失	23,911	12,838
その他	2,112	1,013
特別損失合計	26,024	13,852
税金等調整前四半期純利益	709,568	1,551,922
法人税、住民税及び事業税	216,038	357,300
法人税等調整額	80,393	227,843
法人税等合計	296,431	585,143
四半期純利益	413,136	966,779



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年8月1日 至平成25年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年8月1日 至平成26年1月31日)
四半期純利益	413,136	966,779
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	42,375	6,952
その他の包括利益合計	42,375	6,952
四半期包括利益	455,512	973,731
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	455,512	973,731

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年8月1日 至平成25年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年8月1日 至平成26年1月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	709,568	1,551,922
減価償却費	279,147	285,115
減損損失	23,911	12,838
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△11,232	135
賞与引当金の増減額(△は減少)	△6,956	4,768
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△84,838	△138,544
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	13,006	10,805
受取利息及び受取配当金	△14,155	△11,139
有形固定資産売却損益(△は益)	△594	△655,614
売上債権の増減額(△は増加)	632,594	268,731
たな卸資産の増減額(△は増加)	△216,922	△215,937
仕入債務の増減額(△は減少)	△166,768	△87,110
その他	△399,762	△570,488
小計	756,996	455,483
利息及び配当金の受取額	15,279	11,218
法人税等の支払額	△173,291	△343,554
その他	△1,162	△533
営業活動によるキャッシュ・フロー	597,821	122,613
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△9,000,000	△11,500,000
定期預金の払戻による収入	9,500,000	9,300,000
有形固定資産の取得による支出	△874,383	△340,678
有形固定資産の売却による収入	1,551	1,495,443
無形固定資産の取得による支出	△16,409	△88,158
保険積立金の積立による支出	△120,276	△63,512
その他	48,068	895
投資活動によるキャッシュ・フロー	△461,449	△1,196,010
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△135,632	△169,772
自己株式の処分による収入	—	712,856
その他	△621	△677
財務活動によるキャッシュ・フロー	△136,253	542,406
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	118	△530,990
現金及び現金同等物の期首残高	5,609,684	6,838,840
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,609,802	6,307,850

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年8月1日 至 平成25年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	鋼製物置	オフィス家具	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,072,320	4,752,877	13,825,197	—	13,825,197
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	9,072,320	4,752,877	13,825,197	—	13,825,197
セグメント利益又は損失(△)	1,200,112	△113,426	1,086,685	△432,451	654,234

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△432,451千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「オフィス家具」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては23,911千円であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年8月1日 至 平成26年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	鋼製物置	オフィス家具	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,677,796	4,242,626	13,920,422	—	13,920,422
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	9,677,796	4,242,626	13,920,422	—	13,920,422
セグメント利益又は損失(△)	1,355,174	△113,896	1,241,278	△455,572	785,705

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△455,572千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「オフィス家具」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては12,838千円であります。